

## 2020 年度図書館活動報告(事業計画の実施状況)

### 【2020 年度の到達目標】

書籍、論文等のコンテンツ、それらの流通を支える情報ネットワークおよび利活用の場を提供するとともに研究成果物の組織化、社会に対する教育研究活動の発信・普及に資するための学術情報基盤を整備することで、大学における教育研究活動の根幹を支える。

### I. 学習の質保証および研究支援の充実

#### 1. 教育学習支援機能の充実

⇒学生の「主体的な学び」、学修時間増加と学習成果向上を支援

(1)ラーニング・コモンズの環境整備・支援体制拡大 ⇒学生サポーターの活用 ←E-(1)-1)

→(COVID-19)学生サポーターとして主に学部生を対象とした学修サポートをするための大学院学生スタッフおよび図書館 Eco サポーター等の学生スタッフ募集は休止した。

(2)学部生・大学院生を対象とした情報リテラシー教育の展開⇒授業・演習への支援参加・図書館ガイダンスの継続・拡充 ←E-(1)-1)

→情報リテラシー教育の展開は、基礎課程演習全 28 クラス、“Academic Writing 2” 6 クラス、英文科ゼミ情報検索ガイダンスにて Google meet を利用したオンライン環境にて実施。いずれも授業担当者と綿密な連携を図り、学生アンケート結果も好評であった。

(3)学生利用者の要望に迅速対応、学生提案企画の採用⇒学生との協働推進、Facebook・Twitter の利用 ←E-(1)-1)

→(COVID-19)学生からの利用に関するメールによる問合せ(電子図書その他利用方法・開館時間や貸出に関する質問)に、すべて迅速に対応した。

→My library からの学生購入希望受付 50 件(前年度比 39 件減少、56.18%)。

→文献複写依頼受付件 139 件(前年度比 37 件増加、)。内学生から 40 件(前年度比 30 件増加)。内、My library からの文献複写依頼受付件数 135 件(前年度比 37 件増加)。内学生から 40 件(前年度比 30 件増加)。

#### 2. 研究支援機能の充実 →研究資源・成果共有、研究力強化・研究環境改革の促進

(1)機関リポジトリのコンテンツ充実⇒学術情報データの公開と流通の推進 ←E-(1)-5)

→「聖心女子大学論叢」掲載論文 4 件(前年度比 3 件減少)を登録。

→博士論文全文 0 件(前年度比 2 件減少)、要約 2 件(前年度比同数)、内容の要旨および審査結果の要旨 2 件(前年度比 2 件減少)を掲載。

→「聖心女子大学大学院論集」収録論文の全文 8 件を掲載。

(2)研究成果公開の具体的運用方法を整備 ⇒オープンアクセス方針策定後の運用整備

←E-(1)-5)

→『聖心女子大学論叢』のバックナンバー登録へ向けて、電子化・公開に係る著作権の利用許諾処理を開始した。

### 3. コレクションの構築と適切なナビゲーション機能構築

⇒基本的役割(学術資料収集・構築)を持続、電子情報資源へのアクセスを保証

#### (1) 一般教養書・学習支援書の積極的収集と指定図書・授業用参考資料制度継続実施

←E-(1)-1)

→学生からの購入希望受付件 51 件(前年度比 45 件減少、53.13%)。

→(COVID-19)指定図書制度利用

3 クラス(前年度比 2 件増加)、図書冊数 24 冊(前年度比 23 冊増加)。

→授業用参考図書

授業用参考資料制度による登録数は、98 クラス、図書冊数 296 冊であった。内、購入冊数 17 冊(前年度比 19 冊減少)、購入経費 34,014 円(前年度比 26,924 円減額)。教員からの希望 9 クラス(前年度比 2 件増加)、参加教員数 2 人(前年度比 1 人減少)、図書冊数 105 件(前年度比 38 冊増加)。

#### (2) 各学問分野の専門研究図書の積極的収集 ←E-(1)-1)

→教員からの購入依頼件数は、1,016 件(前年度比 377 件減少、72.94%)。

内、My library からの購入依頼件数は、115 件(前年度比 18 件増加、1.19 倍)。

→システム「Smart PLATON」による教員からの購入希望図書依頼件数 570 件(前年度比 202 件減少、73.83%)。

#### (3) オンライン・データベース、電子ジャーナル、電子ブックの体系的整備と利用環境の最適化

←E-(1)-1)

→オンライン・データベース契約数は、前年度に引き続き 21 タイトルの契約を継続し、新規 1 タイトルを復活させた。

→(COVID-19)出版社およびアグリゲーターから学外アクセス用 ID・PW を取得するとともに、情報企画推進課の協力を得て VPN 接続環境の検証を行い、オンライン・データベース学外アクセス環境を整えた。

→洋雑誌冊子体から電子ジャーナルへ移行した 24 タイトルについて、継続して OPAC 検索結果からリンク機能を付加し、アクセスの利便性を図った。

→(COVID-19)「LibrariE(ライブラリエ)」「和・洋書 571 点」、「Maruzen eBook Library」(和・洋書 172 点)、「KinoDen」(和書 5 点)との契約により電子ブックの導入と点数増加に努めている。

#### (4) 図書館情報システムの機能強化による利用者サービスの充実の促進→業務効率化と ICT 活用による情報資源の効率的利活用への取り組み ←E-(1)-1)

→日本カトリック大学連盟「カト大横断検索システム」へ昨年度行った本学 OPAC システムのバージョンアップ機能を反映させた。

→図書館 HP トップページへのアクセス数は 39,702 回(前年度比回 13,181 減少、75.08%)。

→OPAC 検索回数は 57,022 回(前年度比 186,517 回減少、30.57%)、My Library へのログイン回数は 17,520 回(前年度比 12,658 回減少、58.06%)。

#### (5) 図書館 Web サイトの改修 ←E-(1)-1)

→サイトトップページの更新作業機能の向上を実現した。また、イベントページにポスター等の表示機能を追加することで画面に視覚的機能を加えた。OPAC バージョンアップに係るページの改修を行い、Flash Player 使用部分の改修を終了した。スマートフォン対応ホームページを新たに構築した。

(6) 保有資料のデジタル化(特殊文庫アーカイブ電子化)の促進(デジタルアーカイブ構築と利活用、知的生産物の長期保存に貢献) ←E-(1)-1)

→『聖心女子大学論叢』のバックナンバー8冊、貴重書和装本2冊、武島文庫2冊(内、和装本1冊)、一般和装本4冊、漢籍1冊を電子化し、本学デジタルギャラリーにて公開した。

(7) キリスト教文化研究所と連携し、「岩下文庫」の研究調査活動に参加協力 ←E-(1)-1)

→キリスト教文化研究所の事業に合わせて次年度も継続して協議を進める。

#### 4. 図書館のハード環境の整備 →コンテンツの管理と学習・研究空間の確保

(1) 図書館利用の利便性を継続確保→複数の図書館出入口継続設置による動線確保、夜間開館・自動貸出装置設置を継続 ←E-(1)-1)

→(COVID-19)入館者数は9,384人(前年度比48,870人減少、16.11%)、貸出人数は2,680人(前年度比6,500人減少、29.19%)、貸出冊数は8,749冊(前年度比13,579冊減少、39.18%)

→(COVID-19)時間短縮開館としたため、夜間の開館は後期授業開始日以降から実施。時間数は減少した。

(2) 図書館内空間の利用機能の見直し⇒資料再配置による書庫スペースの有効活用 ←E-(1)-1)

→昨年度に引き続き、A書庫の換気対策に加え、メディア室の水漏れ対策、地下書庫除湿対策等が最優先事項となり、書庫スペース有効利用は計画を中止している。

(3) アクティブ・ラーニングを実現するための、図書館施設を含む1号館の学習環境整備

←E-(1)-1)

→1号館1階に位置する現状の施設を将来キャンパス整備がなされるまでの期間、図書館利用者へ最適な環境を整えるため、時代に見合った施設・設備を整えるための情報を収集中。

→(COVID-19)感染症拡大防止対策を行っているが、なお不足する部分について次年度に向け対策強化を行った。

#### 5. 他機関・地域等との連携 →図書館広報の展開

(1) 図書館資料展示会、講演会開催→地域(社会)との連携強化 ←C-(1)-4)

→(COVID-19)本学教員による学生へのお薦め本紹介「先生方ご推薦!大学生に読んでほしい本」展示2回実施に止まった。

→(COVID-19)学生役員会との合同企画展示「『虹』—復刊記念展示—」において、学生作成による動画にてオンライン展示を行った。

(2) 卒業生、学生父母への利用サービスの継続→新たな学修ニーズに対応 ←G-(2)-8)

→(COVID-19)入館制限対応として、来館利用の際は、事前連絡等の制限付きで開放した。

(3) 姉妹校との連携

→インターナショナルスクールから要請を受けて、共同利用可能なオンライン・データベースについて、共同利用を開始した。

→インターナショナルスクールの授業体制への協力として、図書館 Sunway Room を開放している。

(4) 入学手続き者への入学前利用サービス継続→高大教育連携の推進 ←D-(1)-4)

→来館者2名(前年度比5名減少)

(5) 高校生への通年にわたる図書館開放→高校教育の質保証と入試改革支援 ←D-(1)-4)

→(COVID-19)例年行っている、夏休み中の高校生への図書館開放は実施できなかった。

(6) 地域の他大学・公共図書館との連携 ←C-(1)-4)

→(COVID-19)来館による相互利用は中止している。

→日本カトリック大学連盟「カト大横断検索システム」へ昨年度行った本学 OPAC システムのバージョンアップ機能を反映させた。

II. 基盤確立のための運営体制の強化・・・組織・運営体制の在り方

1. 図書館将来計画の策定→戦略的な位置づけの明確化

(1) 学内外の知の集積拠点である施設としての観点のみならず、学習支援や教育研究に関する機能の観点からの位置付けの明確化 ←E-(1)-1)

(2) 中長期的サービス基本計画と評価指標の設定→客観的評価指標の開発(効果の分析・検証) ←E-(1)-1)

→学修環境の充実という観点から客観的評価指標の設定を継続検討中。評価指標開発ツール導入へ向けて引き続き活動中。

2. 安定的財政基盤の確立→図書館機能の維持・向上

(1) 大学全体予算の一定の割合を図書館経費として確保 ←E-(1)-1)

(2) 洋雑誌、電子ジャーナル、電子ブックに係る経費の適正化 ←E-(1)-1)

→洋雑誌購読タイトル数とオンライン・データベース契約数について検討を継続。

→電子ブックの積極的導入を開始し、係る予算配分の検討を行った。

→図書館学術資料全体のバランス的な収集を実施。

→リベラルアーツを掲げる本学規模大学図書館資料費の経費確保について検討を継続。

3. 図書館委員会活動の積極展開

(1) 関係諸規程整備と大学における図書館の位置づけの明確化 ←E-(1)-1)

(2) 学士課程及び大学院課程各専攻との連携協力関係の推進 ←E-(1)-1)

→すべての事案を図書館委員会と連携し積極的に処理。

III. 図書館職員の育成・確保

1. サービスの高度化に向けた専門職員の確保・育成

(1) 学術情報流通の仕組みを理解し、学術情報基盤を構築する能力をもつ職員の確保

←G-(2)-6)

(2) 教育研究支援を円滑に行ない図書館全体のマネジメントができる得る職員の育成

←G-(2)-6)

2. 大学図書館業務の特殊性を考慮した職員の育成・確保の在り方 ←G-(2)-6)

(1) 各種研修会への参加奨励

→(COVID-19)オンラインによる研修その他により職員の能力向上と専門職員の育成を行っている。

注) ※赤文字：2020年度点検・評価シート（年度末評価）項目番号

※ピンク色文字→成果が上がっている事項

※水色文字→成果が得られていない事項